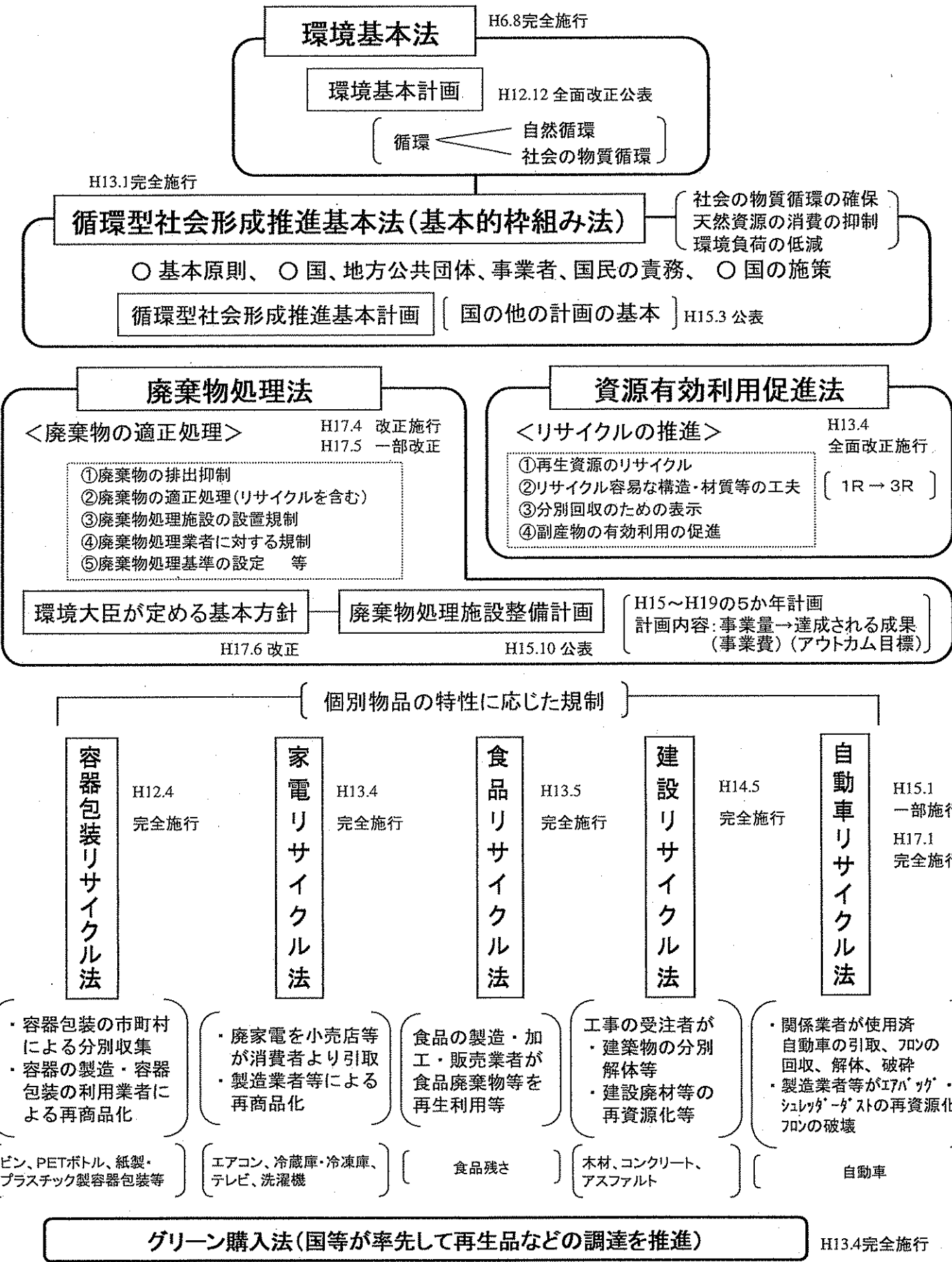


循環型社会形成の推進のための法体系



循環型社会形成推進基本計画の概要

現状と課題

現状：非持続的な20世紀型の活動様式

課題：天然資源の消費の抑制と環境負荷の低減のため、循環を基調とする社会経済システムの実現・廃棄物問題の解決

循環型社会のイメージ

暮らし：良いものを大事に使う「スロー」なライフスタイル

ものづくり：環境保全志向のものづくり・サービスの提供

廃棄物処理：廃棄物等の適正な循環的利用・処分システムなど

数値目標：平成22年度

1 物質フロー（マテリアル・フロー）目標

①「入口」：資源生産性 平成22年度：約39万円/トン（平成12年度から概ね4割向上）

*資源生産性=GDP/天然資源等投入量：いかにより少ない資源で、より大きな豊かさを得るかを表す値

②「循環」：循環利用率 平成22年度：約14%（平成12年度から概ね4割向上）

③「出口」：最終処分量 平成22年度：約28百万トン（平成12年度から概ね半減）

2 取組目標

1人1日あたりごみ排出量の20%削減、循環型社会ビジネスの市場・雇用規模の倍増等

各主体の取組

国：各主体とのパートナーシップの育成、率先した循環型社会形成への取組

国民：ライフスタイルの見直し等

事業者：EPRに基づく適正な3R・処分等

NPO・NGO：循環型社会形成への活動等

地方公共団体：法施行・コーディネーター

3Rイニシアティブ

3Rイニシアティブとは、グローバルな視点から廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)を通じて循環型社会を目指す取組

3Rイニシアティブの提案

2004年

6月 G8シーアイランドサミット (米国)

小泉首相が3Rイニシアティブを提案し、各国首脳が3R行動計画に合意。

3Rイニシアティブの開始

2005年

4月 3Rイニシアティブ閣僚会合 (東京)

G8を含む20ヶ国の担当閣僚・4国際機関代表が参加し、3Rの国際的な推進について合意。
また、「ごみゼロ国際化行動計画」を発表し、国際的に3Rを推進するために日本が主導的な役割を果たす決意をした。

7月 G8グレンイーグルズサミット (英国)

3R閣僚会合の成果を小泉首相より報告。

2006年

3月 3R高級事務レベル会合 (東京)

3Rイニシアティブのフォローアップとして開催。各国・国際機関とも3Rに関する取組が進展していることが確認された。

7月 G8サンクトペテルブルグサミット (ロシア)

10月 アジア3R推進会議 (東京)

2007年

G8サミット (ドイツ)

2008年

G8サミット (日本)

3Rの取組を
推進

3Rの成果の
取りまとめ

東アジア諸国の
3R推進ビジョン・計画の策定

3Rを通じた循環型社会の構築を

国際的に推進するための日本の行動計画（要約）

— 略称：ゴミゼロ国際化行動計画 —

ゴミゼロ社会を国内で実現し、 その経験を世界へ発信

- 循環型社会形成推進基本法に基づく定量的な目標の設定とレビュー
- 国内における3Rの取組をさらに強化

例) 環境配慮設計・製造の推進、家庭ごみ減量化対策、国と地方公共団体が連携・協働した地域計画づくり、廃棄物の不法投棄・輸出対策、各リサイクル法の実施

開発途上国のゴミゼロ化を 支援

- 開発途上国の循環型社会構築のための能力向上を支援

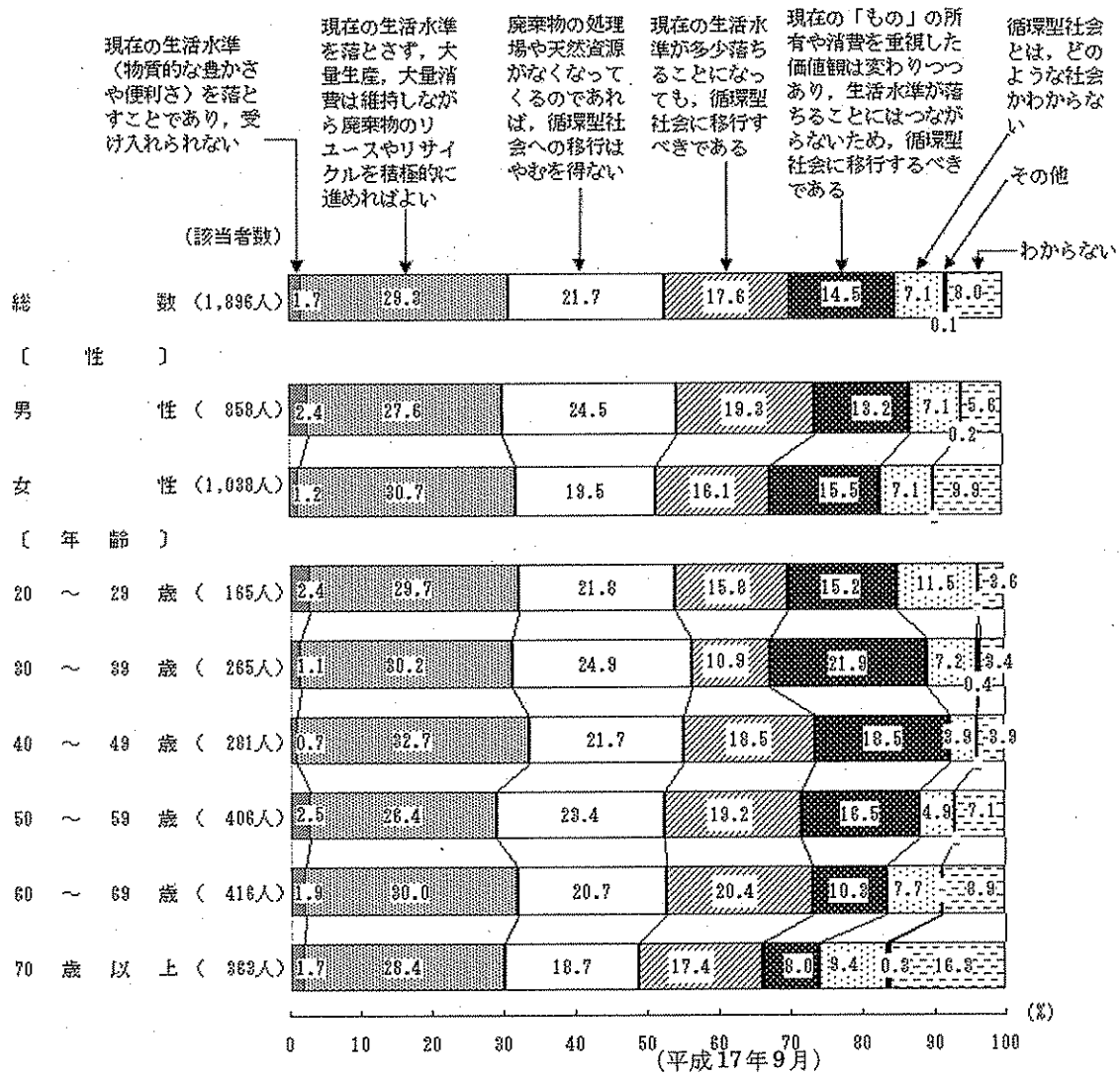
例) 国際機関と連携したエコプロダクツ展の開催、人材育成を通じた拠点づくり、リサイクル物資の輸送支援、国内外の民間団体の支援

ゴミゼロ社会を世界に広げるための 国際協調を推進

- 様々な国・機関と連携してゴミゼロ化政策を展開
例) ・ 3Rイニシアティブのフォローアップとして高級事務レベル会合の開催
・ G8等の関係諸国・国際機関と連携を強化
・ 特に東アジア等の地域レベルの取組として、東アジア各国における「循環型社会形成のためのビジョン/計画」の策定等を支援、有害廃棄物の不法輸出防止に関するアジア政府間ネットワークの強化
- アジアにおけるゴミゼロ化のための知識基盤・技術基盤を強化
例) ・ ごみ処理やリサイクルに関する意識の向上、技術の提供や制度構築の支援を通じたキャパシティビルディング
・ 東アジア3R研究ネットワークの構築
- 情報発信・ネットワーク化を通じてゴミゼロ化の行動を促進
例) ・ 国際グリーン購入ネットワークと連携してグリーン購入を世界的に推進、3R優良事例のデータベースを構築、循環型社会構築のための政府、自治体、企業、

◎環境問題への意識について

循環型社会の形成についての意識



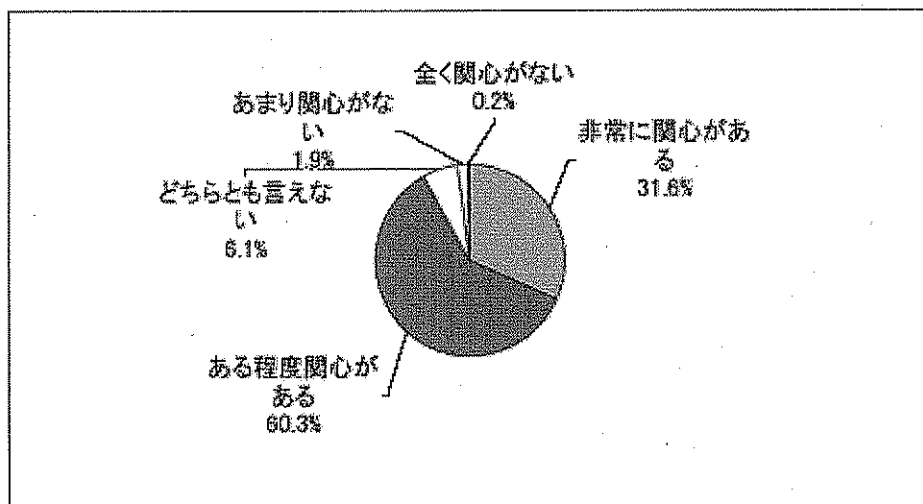
【出典：環境問題に関する世論調査（平成17年度、内閣府）】

◎ごみ分別の意識について

(例) ごみ分別意識調査結果について

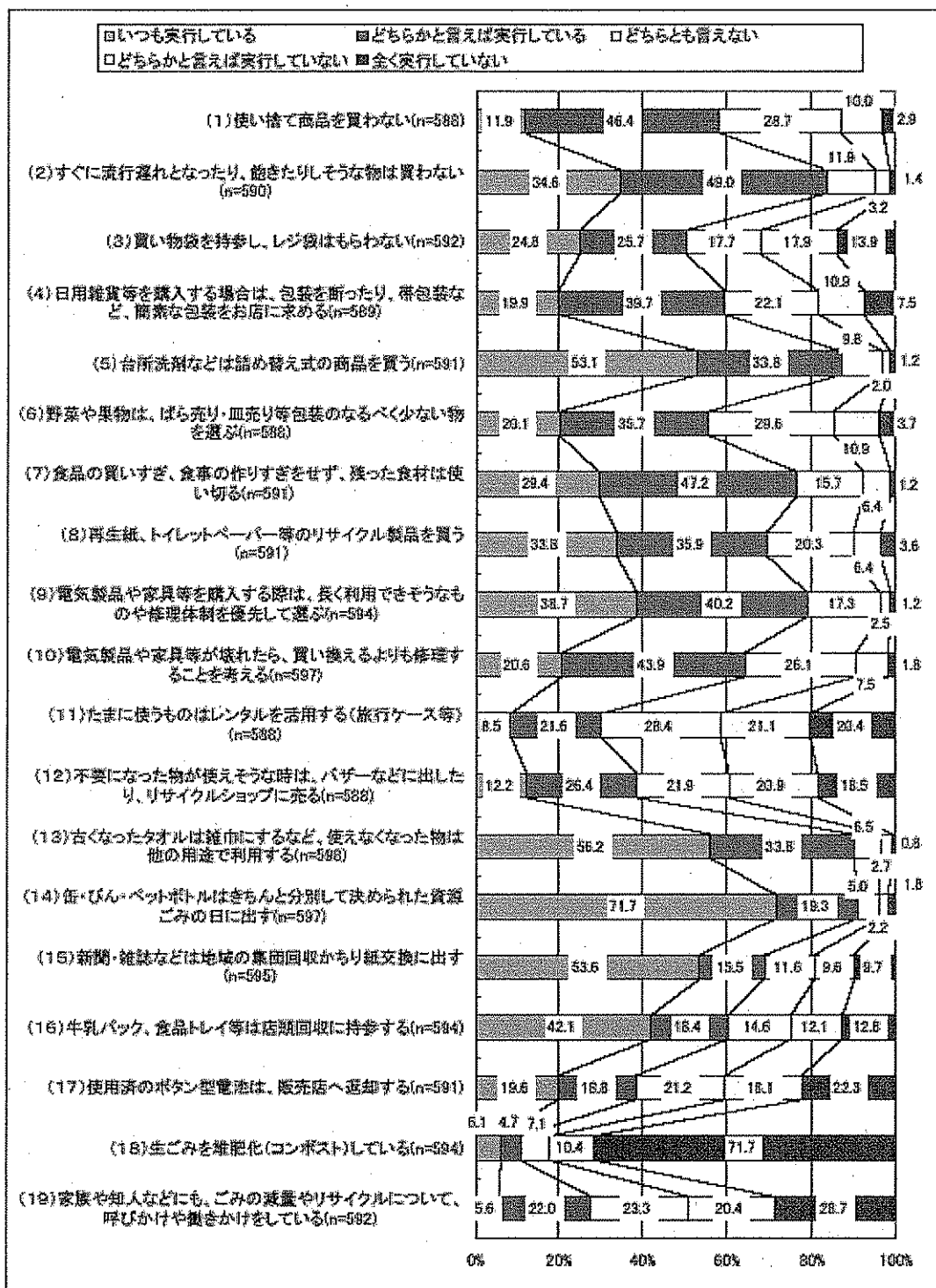
1. 調査期間 平成16年3月31日～4月13日
2. 調査内容 『ごみの減量について』
3. 調査目的 ごみの減量資源化を進めていくうえでの参考資料。
4. 調査対象 1,103人
5. 回収数 605通
6. 回収率 54.9%
7. 調査結果 比率はすべて各設問の無回答を除いた有効回答者数に対する%で、小数点第2位以下を四捨五入して算出した。各設問の有効回答者数はN (Number of case) で表している。

問 あなたは、ごみの減量やリサイクルの取り組みについてどの程度関心がありますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。(n=589)



【出典：神戸市】

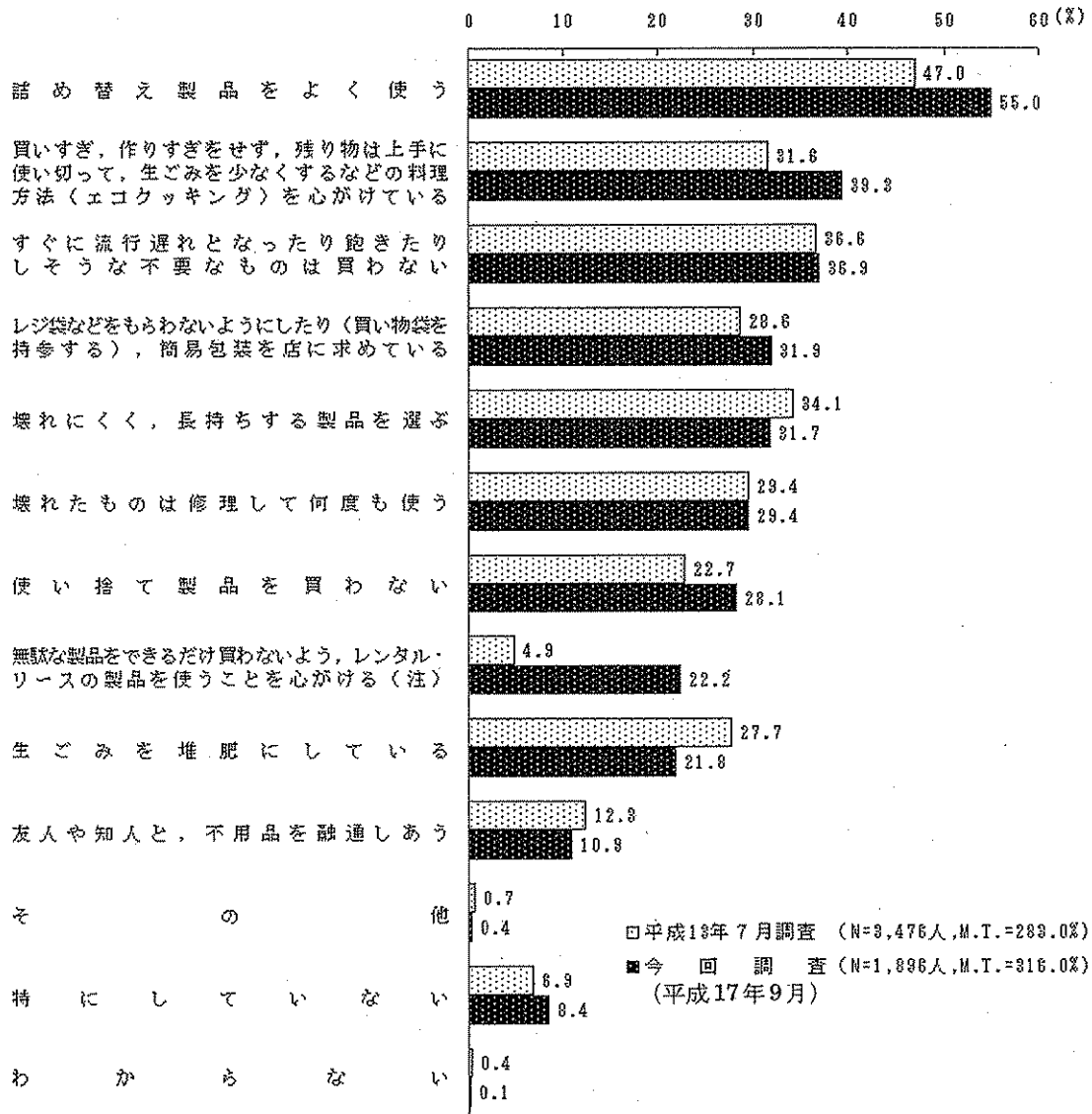
問 あなたはごみをできるだけ出さないために、以下の行動に関して、日頃どの程度実行されていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。



【出典：神戸市】

ごみを少なくするために心がけていること

(複数回答)

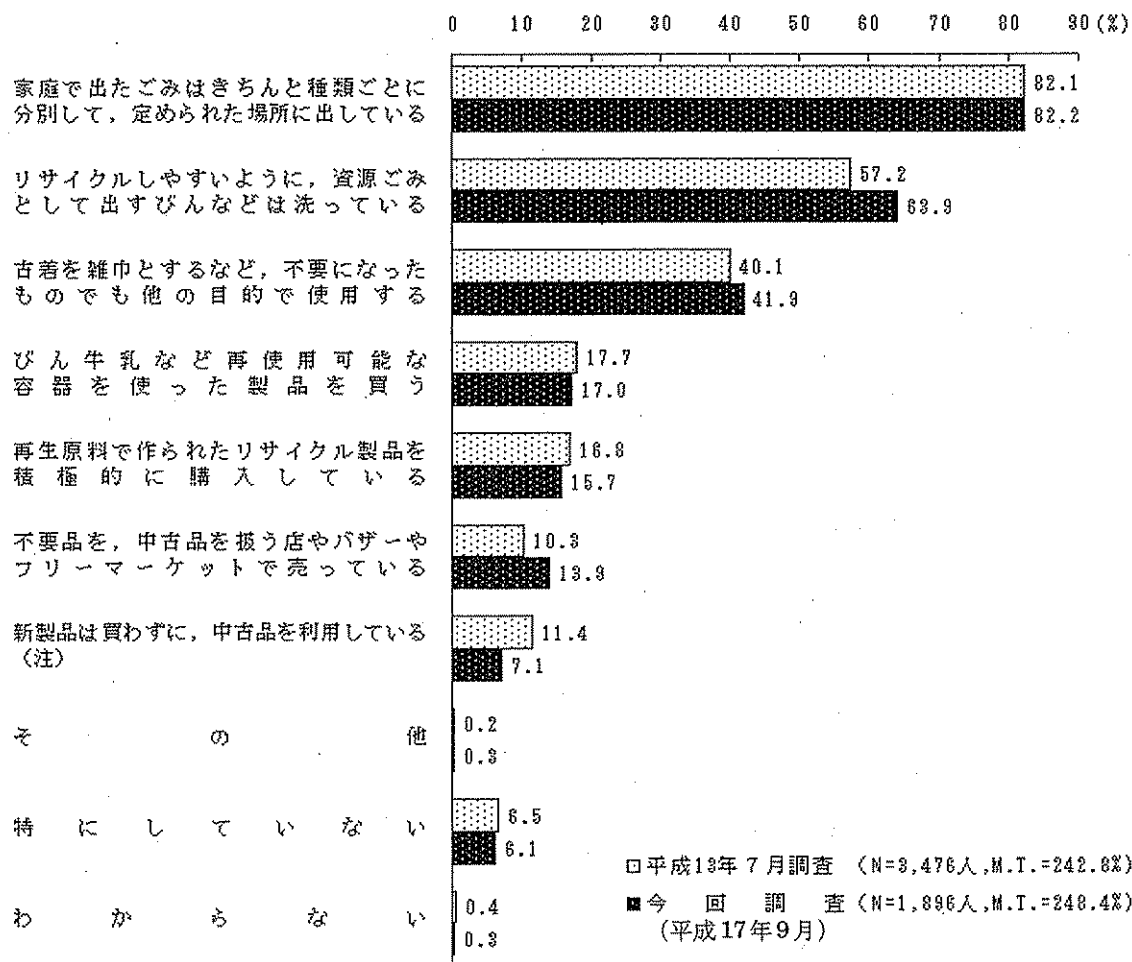


(注)平成13年7月調査では、「レンタルの製品をよく使う」となっている。

【出典：環境問題に関する世論調査(平成17年度、内閣府)】

再使用や再生利用のために心がけていること

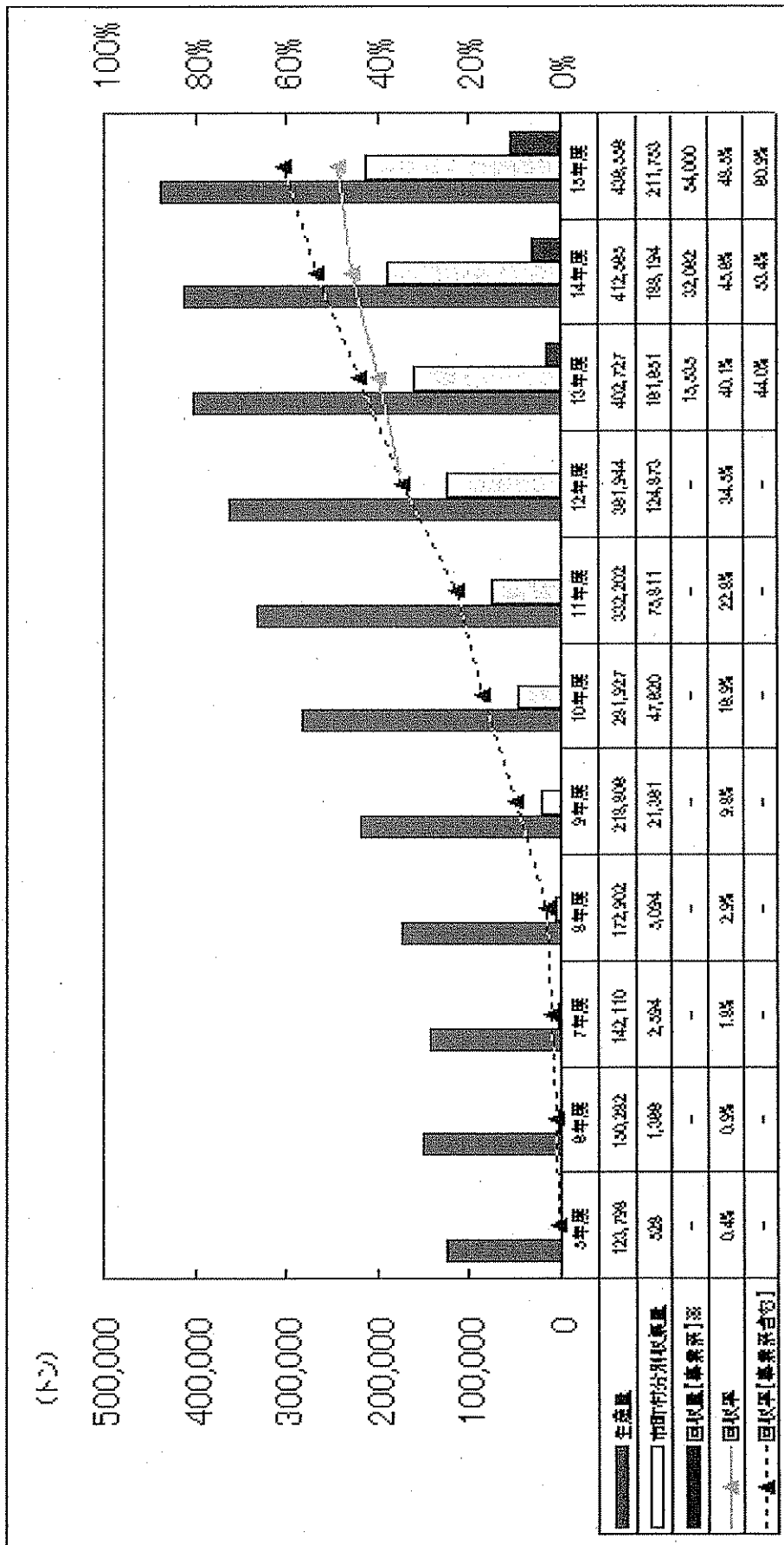
(複数回答)



(注) 平成13年7月調査では、「中古品を利用している」となっている。

【出典：環境問題に関する世論調査 (平成17年度、内閣府)】

◎分別収集の実態について
 ・PETボトルの生産量と分別収集量の推移



※【事業系】についてはPETボトルリサイクル推進協議会による調査

【出典：環境省HPP】